



伊藤いさお県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会 〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

空港都市・富里のために…3期目に決意新た

富里市特集 6月県議会一般質問

空港基業へ県政施策に全力



6月県議会で一般質問に登壇する伊藤勲県議

成田空港都市圏として発展が著しい富里市のまちづくりを奔走する伊藤勲(いとう・いさお)県議は今春の地方統一選で充実の3選を果たしました。「当選は支持してくれた多くの市民の力であり、皆様の声や要望を県政で生かす」と当選「おぼんじり」なく謙虚に、ふるさと富里市民のための県政に決意を新たにしています。

6月県議会で一般質問に登壇。空港と共栄を目指す地域からの「成田空港問題」をはじめ、地場産業の農業に視点を置いた「地球温暖化と食料問題」「食と農の県民条例制定」を要望提言して注目されました。質疑を1・2面で特集しました。

羽田国際化に成田危機感 魅力ある成田へ整備促進も

伊藤 羽田の24時間化や航空の自由化(オープンスカイ)について、どのような認識をもって対応してきたのか。

知事 日本がアジアの中の国際的な状況に危機感を持っていて。韓国、台湾、香港、上海にハブ空港があり、拠点要素をとられてしまう。だから羽田の国際化を主張する人を理解しないわけではない。

しかし、成田の滑走路北伸後の発着数を知らず、羽田の4本目滑走路は木更津

千葉県として踏ん張らないといけません。

伊藤 将来伸び続ける首都圏の国際空港需要に対応した成田空港のあり方について具体的にはどのように考えているのか。

知事 北京五輪で羽田―上海間のチャーター便が現実味を帯びてきました。私たちが抵抗勢力になると説得力がなく、どうやって魅力ある成田地域にするか、また空港アクセスをどう強化するかです。圏央道で羽田との連携、成田新高速鉄道、北千葉道路といった形で強化して成田空港の条件を十分整備することが必要だと思います。

成田国際拠点空港へ騒音や物流施策も展開

伊藤 成田空港の国際線を継続させていくための手法を考え、ただ国の議論を見守るだけで成田の国際拠点空港としての位置づけが将来も保証されると考えているのか。地元経済界の要望を踏まえて更なる空港周辺地域の将来のあり方をどう考えていくのか。

知事 黙認しているふうに言われるのは心外です。時間と労力を費やしています。経済財政諮問会議は、羽田の国際化と24時間化を言っています。それでも守りの構成だと抵抗勢力となってしまうので攻めていかないとけない。両方の空港を連携した首都圏空港、成田の機能強化を主張したからこそ骨太の方針に成田が入りました。

地元の騒音なども無視し

伊藤いさお県議 PROFILE

●略歴●

- 昭和16年 3月 富里町生まれ
- 昭和34年 3月 成田高校卒業
- 昭和56年 4月 富里町議員初当選(5期)
- 平成7年 5月 富里町議会議長
- 平成11年 4月 県議会議員初当選
- 平成15年 4月 県議会議員再選
- 平成19年 4月 県議会議員3選

●現職●

- 県議会 総合企画水道常任委員会委員
- 県議会 議会運営委員会委員
- 千葉県 農政審議会委員
- 自民党県連 農政問題研究議員連盟会長
- 自民党県連 県議会議員会副会長

県政や富里市のご相談、ご意見を聞かせてください

伊藤勲 県議事務所

〒286-0202 富里市日吉倉1381
TEL.0476-93-1461

基幹産業・農業問題も質疑

広い視野で地球温暖化と食料…



知事の横で6月県議会一般質問に登壇、質疑をする伊藤県議

温暖化対応の稲品種改良 亜熱帯果樹栽培を研究も

伊藤 オゾン層保護対策と県及び県庁における地球温暖化対策について、取り組み状況と結果についてどのようになっているのか。

環境生活部長 フロン回収破壊法に基づき冷蔵庫、エアコンを回収、平成17年度前年比22%増の約218ト

温暖化は「CO2CO2 (コツコツ) ダイエット計画」を策定、バイオマス利用や新エネルギー導入など10のプログラムを推進。県庁でも18年度にマイナス3%を目標とする「県エコオフイスプラン」を策定し省エネや低公害車導入など削減に取り組んでいます。

富里市特集 6月県議会一般質問



自席で再質問を行う伊藤県議

伊藤 本県農業の持続的発展のため、地球温暖化に対応した農作物の栽培技術の確立に向け、県としてどのように取り組んでいくのか。

農林水産部長 温暖化は気温上昇や水不足に伴う、作物の栽培適地の変動や病害虫の発生など農業生産に大きな影響を与えることが懸念されます。国は今年3月、「農林水産研究基本計画」を策定、水不足の乾燥に強い稲品種の育成、病害虫の防除技術などの調査研究に着手したところです。

県でも高温化の水稲生産技術の開発、亜熱帯果樹の試験栽培に取り組む、対応した技術開発を進めます。

伊藤 林業の活性化、脱石油農業、環境保全の観点から早期に木質ペレットを施設園芸の燃料に導入する試験研究開発に取り組むべきと考えるがどうか。

農林水産部長 木質ペレットを燃料にした大型加温機はJ A宮崎が実証試験でキユウリのビニールハウスで燃料コスト1割削減されたと聞いています。しかしポイラーが1千万円と高額で県内にペレット工場がないことから課題も残されていることから課題も残されている

本県農業の活性化を認識 「食と農の県民条例」提案

伊藤 本県農業の活性化を図り、県民の食と農の共通認識を高めていくために「食と農の県民条例」の制定を検討すべきと考えるがどうか。

農林水産部長 本県農業は担い手不足や高齢化による作付け面積の減少など基礎体力が弱まっているという危機感を感じています。

そこで県では、将来にわたり持続可能な、産業として自立できる力強い農業を県民と一体となり構築する

この計画は、県民自らが本県農業の将来像を描き、その実現に向けた道筋を明らかにすることで食と農の共通認識を高め、県民が一体となり、本県農業の発展を図るためのものです。条例制定については、計画作りを進める中で検討したい。

ます。資源有効活用は重要なので研究していきたい。

木質ペレット有効利用を

要望 伊藤 昨年10月の農林水産常任委員会で北海道視察した際に木質ペレット工場を視察した。家庭や事務所用の少し大きめのファンヒーターで、量産していないので30万円程度と高めだが、温暖化防止や林業振興、脱石油のため、木質ペレットの有効利用を図っていただきたい。

誠実に、真剣に

伊藤いさおの県議

6月県議会自民党代表質問

職員給与減額措置継続で論戦

改選後の6月県議会で、最大会派の自民党代表質問に岡村泰明政調会長、四街道市選出、4期IIが登壇、財政、成田空港問題、高齢者問題、医療、環境、新産業振興、教育など幅広い今日の課題について質問、県の姿勢をたずねました。

財政問題では、同議会に追加提案された県職員給与の減額措置の継続案について、「10年間も職員に負担を課すことについて、どのようなことを考えているのか」と質問、知事は「財政健全化に向け、さらなる行政改革に取り組みたい必要がある。苦渋の決断」と理解を求めました。

また、平成18年度一般会計決算見込みでは、2月議会時の「収支均衡」から一転、28億円程度の赤字となる見込みとしました。

羽田空港の国際化の進展に対する県の考え方は、今後も「成田は国際、羽田は国内」の基本方針の堅持を強調、増大する首都圏の国際航空需要に対応するため、成田空港平行滑走路の北伸整備を適宜に進め、羽田と成田の有機的連携強化が唯一現実的な対応と述べました。